

ツバキ

花言葉 控えめな優しさ／完璧な美しさ

凛とした端正な美しさ
控えめな「椿」に見る日本の美意識

プロが伝授!花を長く楽しむアドバイス

- 花やつぼみに傷みがないもの、葉が変色していないものを選びましょう。
- 生ける際には枝を斜めに切り戻し、さらに枝に縦にハサミを入れて十字の割れ目にするとうまわりがよくなります。
- 部屋が乾燥しているとつぼみが咲かない場合がありますので、ある程度の湿度を保ちつつ、なるべく涼しい場所に飾りましょう。

お家で簡単! 3ステップアレンジ

- ① ツバキの枝ぶりをよく観察し、花がついた枝、つぼみがついた枝を切り分けます。
- ② まず、メインになる花のついた枝をあしらいます。花が真正面を向かず、やや左右に振れていると自然です。花の美しい表情を探しながら生けてみてください。
- ③ 葉の美しさも魅力なので、葉の向きなども意識しながらつぼみの枝をプラスします。凛と潔いツバキだけの花あしらいを楽しみましょう。

日本を代表する冬の花木

古くは古事記、万葉集にも記される常緑低木。冬から春にかけて咲く楚々とした花にくわえ、艶やかな葉もツバキの魅力です。実から抽出した「椿油」は高級品として重宝されています。江戸時代に盛んに品種改良され、いけばなや茶花に用いられてきました。17世紀末に欧州へ渡り「カメリア」の名で人気を博し、彼の有名なシャネルのモチーフに。

